

第18回アジア競技大会（ジャカルタ・パレンバン）の状況

<大会概要>

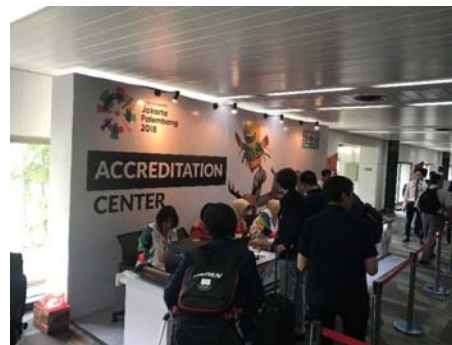
開催期間：2018年8月18日（土）～9月2日（日）（16日間）

競技数：40競技（67種別・465種目）※デモンストレーション競技として、カヌーポロ及びeスポーツを実施

競技会場数：51会場

参加者数：選手11,300人 役員5,800人 メディア11,000人 ボランティア13,000人 ※OCAホームページより抜粋

<ジャカルタ・パレンバン大会競技実施会場位置関係図>



① 空港（左：アクセディテーションセンター 右：歓迎装飾）

- ・アクセディテーションセンターを設置し、事前に送付したADカードを有効化した。
- ・入国審査にあたっては、大会関係者専用レーンを設置。ADカードがビザの代わりとなる。
- ・空港内には、大会の歓迎装飾が施されている。



②ジャカルタ選手村（左：外観 中左：宿泊室 中右：ダイニングホール 右：輸送モール）

- ・新築の公営住宅（賃貸）を選手村として事前活用（9.8ha）。7棟の建物（24階建もしくは32階建）に約11,000人が宿泊。
- ・各棟4階以上が宿泊室（1室3名利用）であり、1階～3階には診療所やトレーニングルーム、クリーニング、売店などのサービス施設を配置。
- ・ダイニングホールは、仮設で設置し、約3,500席を用意（24時間体制で食事を提供）。
- ・イベント広場では、入村式、文化プログラムなどを実施。
- ・選手村の正面入口付近に輸送モールを設置。多くのバスが停車していたが、規模が小さく、スムーズな乗降が困難。



③競技会場（左：バドミントン会場 右：プレスセンター（仮設））

- ・試合会場では、会場装飾の他、スポンサーの看板も掲出されている。
- ・審判控室、医務室、プレスセンター、ドーピングルーム、VIP ルームなど、多くの諸室が必要。
- ・諸室の不足については、仮設テントの設置で対応。



④警備（左：観客入場時の検査の様子 右：AD カード読取機）

- ・警備については、警察や軍が対応。
- ・観客の会場入場時には、金属探知機やX線検査機による手荷物検査を実施。
- ・関係者入口では、専用のADカード読取機を使用した検査を実施。



⑤開会式・閉会式（左：開会式 右：閉会式）

- ・開会式はインドネシアの歴史や自然をテーマにした演出。ステージ中央に山をモチーフにしたセットを設置。
- ・閉会式では、大会ボランティアも選手と同じようにグラウンドに入り、式典に参加した。
- ・選手は入場するまで隣接する水泳会場の観客席で待機。



⑥メインメディアセンター（MMC）

- ・記事の作成等を行うメインプレスセンター（MMC）や国際放送の映像を制作する国際放送センター（IBC）が設置。



⑦シティドレッシング

- ・大会の機運醸成のため、マスコットやカウントダウンボード、道路脇の看板やのぼり、気球等によるPRを実施。

<参考：アジアパラ競技大会での対応>



①バス乗車用スロープ

- ・車いすの選手は介助者のサポートを利用して乗車する。



②バス内部（車いす対応車両）

- ・既存の座席を撤去し、車いす用のスペースを確保している。



③選手村宿泊室内シャワー・トイレ

- ・車いす対応のため、入り口のスロープや手すりを設置している。



④競技会場（車いすスペース）

- ・既存の車いす席が無い会場では、コート脇に専用席やスペースを設けている。